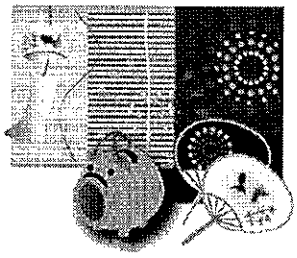


ちいきのなかま通信
NO. 29

受付
27. 7. 31
男女共同参画室

発行日：平成 27 年 8 月 1 日
発行者：特定非営利活動法人ちいきのなかま

ちいきのなかま　コラボレーション進化中　日々の仕事

産前産後ケア事業　佐世保での実施をめざして佐世保助産師会さんと連携！

「お産体験をシェア」がつないでくれた「ご縁」

ちいきのなかまは個人と個人が支え合いのような仕事の援助を得意とします。スキルを身に付けて家事代行等を事業化…となれば産前産後ケアの一翼を担うことは可能だと思っています。暮らしの視点からの「食育」も考えています。ただ助産師の仕事はできません。産前産後ケアをするなら、助産師さんとの連携は必須。

先日ひとりの助産師会のメンバーの方からいただいたご連絡。冊子「夢をカタチに」を読んでくださり「お産体験をシェア」の取り組みに共感いただいたとのこと。会話を積み重ねているところです。

産前産後ケア、学習して見えてきた課題→「みんなの実家プロジェクト」への道

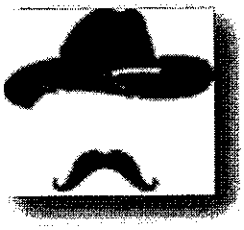
ちいきのなかまでは「産前産後ケア」の学習会を H25 から続けてきました。現在東京都江東区の産前産後ケアセンター東峯サライ副所長の濱脇文子さんから産前産後ケアの考え方についてお話を聞いたことが、従来の産後ケアの概念を変えるきっかけになりました。多くの人は「産後ケア＝産褥期のママのお世話」という概念ではないですか？産褥ケアも含めて、出産直後から家族が子育て力を育み家族の信頼関係が形成されていく過程を社会が応援すること…ではないかなといまは認識しています。そのような応援はまだこの地域にはありませんが、日々子どもと家族に関わる者としてその支援は必要だと実感しています。

NPO の仕事は相談の中から生み出されるもの…です。ファミサポはじめ相談には産後の援助に関わるものが少なくありません。近年確実に実家に頼れない出産が増加しています。「みんなの実家プロジェクト」はそこからの発想です。昨年「うどはうす」に取り組み、いつの日かシェアハウスにつながります。現在のうどはうすはその原点。

コラボレーション追記

もうひとつありがたいご協力で企画開催。佐世保法倫会館さんのご紹介で戸尾町本覚院住職さんに「納骨堂の話」をしていただきました。ご協力に感謝いたします。通信郵送の方には法倫会館さんのチラシも同封しています。　みなさんの終活にお役立てください。

うどはうすの管理人　菊池　修さんのご紹介



7月松山市から佐世保市に転居し、うどはうすの管理人を引き受けてくれた菊池さんはどんな人なのか。まだご存知ない方や会ったけれど話せていない人、変な人だなーと思っている人たちに向けて、紹介したいと思います。

○ちいきのなかまの設立時からの理事です。

○雑誌のライター、サラリーマンなどを経て阪神淡路大震災を機にNPO・ボランティアの世界の人になりました。

○10年ほど前まで不登校の子どもの居場所「遊民館」を主宰。

○その後、愛媛県松山市でNPOの中間支援さらには全国でNPO支援分野で活躍し、日本でのNPO活動の普及に尽力してこられた方です。

今後はうどはうすでNPO法人ちいきのなかまの事業を実施してもらうキーパーソンのおひとりです。もうすこし詳しく聞いてみましょうね。

菊池　修さんに一問一答

Q. なぜ「うどはうす」の管理人になったのですか？

A. 愛媛で食えなくなったからねぇ(笑)行政と「協働」っていろいろやってきたけど、限界が見えたし若い人たちに任せたいと思うとジジイは邪魔でしかなのでね。佐世保で拾っていただけないかと。

Q. なぜ佐世保だったんですか？

A. もともと地元より県外に呼ばれて仕事をしてきたんですけど佐世保はよく来る街だった。「来いよ」と言っていただける街が何箇所かあったんだけど例えば山形の庄内とかね北国で雪が深い。たまに訪れるのはいいけど住むのは嫌だな、と思って南国の佐世保に決めました。

Q. 佐世保に来て実現しようと思っていることは？

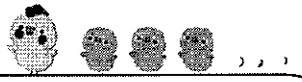
実は特に何もないです。ずっと佐世保で暮らして何かやろうとしている人たちがいて、なにかのお手伝いが出来て僕がこの町で生きていくことを承認して助けていただければ、と思っています。その意味では「使える男」でいたいと思っていますが。

とりあえず「うどはうす」に本とレコードを持ち込みましたし、たいていいつもいますから暇つぶしにふらっとよっていただく人が増えれば嬉しいですね。

「せんそうほうき」の取扱説明書

同封の「せんそうほうき」の取り扱いについて。

㊟この「ほうき」は正しい使い方を読んでからご利用ください。



○　この「せんそうほうき」は電気エネルギーや電池ではなくみなさんの「心のエネルギー」で動きます。

○お部屋のお掃除には不向きです。争いごとや争いの予防にのみお使いください。

○事の大小は問いません。

○もし「戦争なんて嫌だ！」という同じ思いの方がいたら「せんそうほうき」のことを教えてあげてください。

○「なぜこのほうきつくったのかな？」と不思議に思ったら、家庭やお友だちと話し合ってみてください。話し合うことが平和への第一歩です。

この「せんそうほうき」は『MIHOの不思議劇場』でおなじみのパントマイマー村田美穂さんがひとつひとつ手作りしたものです。昨今の状況に、未来が心配という気持ちは子どもに関わる人間として私たちも同じく思うところです。

今年は太平洋戦争の戦後70年の節目の年です。戦後何年経とうとも過去の大戦で失った世界中のひとたちの生命のことを私たちはずっと忘れてはいけない。学び、継承するべき歴史です。日本は戦後、世界が驚く程の復興を成し遂げ、その間一度も戦争で人が殺されることなく、また殺すこともなく今日までの歴史を築き上げてきた誇り高い国です。

しかし昨今の国会や政府の姿勢を見ていると、この国の行方に不安を感じます。そんな時にMIHOさんの「せんそうほうき」の存在を知りました。すでに5,000個の「ほうき」をつくり多くの人に思いを届けています。

私たちもMIHOさんのつくった「ほうき」を届けたいと思いました。この「せんそうほうき」みなさんのお手元に届いたら身近なお友だちやご家族と「戦争」についてぜひ話し合ってください。

そんな気持ちで「せんそうほうき」を送ります。

ぜひご活用ください。

●これからベントや講座の予定●

☆よろしければ予定に書き加えていただければ幸い。

イベントには有料・無料、託児の有無などあります。事前にお問い合わせください。

イベント名	日時	会場	内容
市民ネットワーク講演会（別紙案内）	8月2日（日）13:00～16:00	コミュニティセンター5Fホール	講師：内田良子さん ¥500
ぽちぽちヨガ教室	8月3日・17日（月）14:00～	うどはうす	定期開催¥500
お産体験をシェア	8月12日（水）10:00～12:00	うどはうす	お産体験を伝え合う ¥500
特別企画 怪談話	8月12日（水）19:00～21:00	うどはうす	特別企画¥500 持物：怪談話
おもちゃ図書館 ちいきのなかま	8月18日（火）10:00～12:00	ファミリーサポートセンター事務所	定期開催 無料
きくちおさむの本のソムリエ	8月22日（土）19:00～21:00	うどはうす	定期開催 ¥1,000（軽食含）
DJきくちおさむ 音楽を語りたおす	8月29日（土）19:00～21:00	うどはうす	定期開催 ¥2,000（軽食含）

後記

昔、田舎町の公民館でお盆頃怪談物の映画を上映。終わり頃に後ろに幽霊に扮した誰かが現れて悲鳴。終わって外に出ると照りつける白い太陽にホッとしたものです。夜は家の前で子どもだけでの花火が定番。お盆が近づくと必ず入ってくるしおからトンボ。母が「ご先祖さんが乗っている」と言うので、その時期にはトンボとりは禁止でした。蚊帳に蚊取り線香に、かき氷、縁側ではおじちゃんたちがステテコ姿でうちわもって涼んでいました…昭和定番の夏の景色が懐かしい。

NPO法人ちいきのなかま　入会ご案内

正会員：総会議決権あり　入会金¥1,000　年会費¥6,000

賛助会員：総会議決権なし　年会費¥3,000

主な特典：各種事業会員特別料金にてご優待

連絡先　特定非営利活動法人ちいきのなかま

〒857 0022 長崎県佐世保市山手町9-19

携帯　090-9498-3608

E-mail:chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp